

金曜アンテナ

ビルマ軍政府と民主カレン仏教徒機構の密接なつながり

ビルマ・カレン州の州都パイン市を取材中の六月半ば、街の中を四輪駆動車で自由に走り回っている民主カレン仏教徒軍（DKBA）*兵士たちの姿を撮影することに成功した。DKBAは一九九五年から現在まで、タイ・ビルマ国境のカレン人難民キャンプを繰り返し襲撃している実行犯である。

また、パイン市内を乗り合いバスで移動中、迷彩服を着て自動小銃を持ったDKBA兵たちがバスに乗り込んでくるのを目の当たりにした。一般人にまぎれこんだ単独行動の兵士の姿は、さすがのビルマ国内でも異様な光景であった。ビルマ政府軍が完全に支配している州都の中心部で、別の軍組織が勝手気ままに行動できるとは不思議であった。

武装闘争を続けるカレン民族

同盟（KNU）の弱体化をねらうビルマ軍政府（SPDC）は、カレン人同士の内部抗争に見せかけるため、DKBAへの支援をせつせと続けている。カレン人難民キャンプを焼き払ったり、タイ人の誘拐を繰り返し返しているDKBAとの関係を否定するSPDCの主張は、パーこれですます信じられなくなつた。

*KNUから分かれたDKBOの軍事部門。

（宇田有三）

△写真キャプション▽

・ビルマカレン州の州都・パイン市を走り回る民主カレン仏教徒軍（DKBA）